

第109回 厳寒の玉川上水

(再 2025/01/25)

学び舎江戸東京ユネスコクラブ

2013.1.26～

大寒を過ぎ玉川上水の木々は、すっかり葉を落としています。この時期は、柿の実も、木の実も少なくなります。既に蟠梅が咲いています。2月の立春まで鳥たちは何を食べ、厳しい冬を越すのでしょうか。厳寒の玉川上水は野鳥たちの冬越しの生活を観察するには、絶好の季節です。

POINT ① 冬鳥と漂鳥



コサギ



アオゲラ



ツグミ



ジョウビタキ



コゲラ



ムクドリ



シジュウカラ



ウグイス



イラガのマユ

留鳥：一年を通じて玉川上水で生活する留鳥 スズメ、エナガ、カラス、オナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、キジバト、ヤマガラ、ヒヨドリ、カワラヒワ、アオゲラ、ムクドリ、ヒバリ、キセキレイ、カワセミ、コサギ
冬鳥：11月、北のシベリア、カラフトなどから渡ってくる“冬鳥”
ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、カシラダカ、モズ、
漂鳥：11月になると、国内の北の地方や山地から飛んでくる“漂鳥”
ウグイス、アオジ、アカハラ、トラツグミ、シメ、ルリビタキ、イカル、コサギ、カワラヒワ



ヤマガラ



緋鯉とカルガモ



ヒヨドリ

POINT ② 野草たちの冬越し(ロゼット)

野草たちは、冬を越すための工夫をしています。地面にはいつくばったり、ちぢこまったりあの手この手で挑戦しています。一方樹木は、冬芽を枝の先につけ、春を待ちます。



ヒメオドリコソウ



セイヨウタンポポ



ヤブジラミ



オオアラセイトウ



ハルノゴシ



エノキシギシ



イモカタバミ



これは何?

POINT③ 冬の樹木たちと冬芽



テイカカズラ
赤松に絡みつく



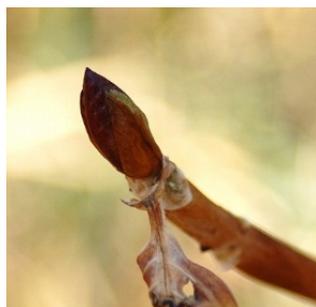
キズタ（別名フユツタ）ケヤキなど落葉高木に絡みついた姿は常緑広葉樹みたい



ムラサキシキブ



ミズキ



アジサイ



ウグイスカグラ

マンリョウ



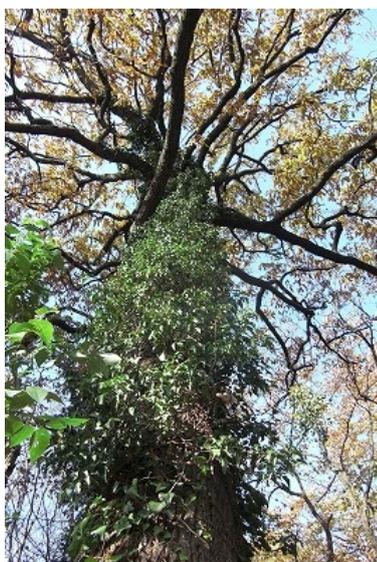
アオキ





テイカカズラ

アカマツに絡みつく



キズタ (別名フユツタ)

樹木ではないが、ケヤキなど落葉高木に絡みついた姿は常緑広葉樹みたい



ロウバイ(蠟梅)

葉の出る前に香の良い黄色の花を下向きに、内側に茶色の花被片



ケヤキ

〔資料〕 野草

「草」とよばれている植物には、1年草と2年草、さらに多年草があります。

○1年草 その年で発芽・成長・開花・結実・種子と過ごし、種子の形で冬を越します。

この仲間にはエノコログサ(ネコジャラシ)やイノコヅチ、タデなど。きっと、どこかで、早く春のくることをじっと待っていることでしょう。

○2年草 2年間かけて、発芽・成長・開花・結実・種子と過ごします。

この仲間には、スミレ類、ホトケノザ、ヒメオドリコソウなどがあります。今は、小さな苗のような姿で霜や寒風に負けずに、落葉に囲まれてすごしています。

○多年草 何年もその根が枯れずに残り、毎年株を殖やす植物です。

この仲間にはツリガネニンジン・カンゾウやワレモコウのように、地上は枯れてしまい、地中に芽と根が残り、落葉の布団の中で春を待つものと、ヨモギやヨメナのように、地表に這った姿で、落葉で風や霜をよけて冬を過ごすものがあります。よく、タンポポがピタッと地に這った姿で冬に見られますが、あの姿をロゼットと言い、冬を過ごす姿です。



(お知らせ) 第110回観察会は、2025・3・22(土) 9:30～です！